

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年03月12日

計画の名称	広島の陸の玄関にふさわしい交通結節点の実現と公共交通ネットワークの機能強化(一期)											
計画の期間	平成31年度～令和05年度(5年間)											
交付対象	重点配分対象の該当 ○											
計画の目標	JR西日本や広島電鉄と連携して路面電車の駅前大橋ルート整備や南口広場の再整備等を行い、利用者の利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成や交通結節点機能の強化を図る。											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	6,522	A	6,522	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			定量的指標の現況値及び目標値		
	定量的指標の定義及び算定式			当初現況値	中間目標値	最終目標値
				H29		R5
1	JR広島駅の利用者数を増加させる。 JR広島駅乗車人員(1日平均)の過年度増加数から推計			77174人	人	84000人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
広島駅と市内中心部(紙屋町・八丁堀地区)間の路面電車により移動所要時間を、現況約14分から事業完了時には約10分に短縮させる。												

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況	
		一體的に実施することにより期待される効果											H31	R02	R03	R04	R05			
		備考																		
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	広島市	直接	広島市	-	-	広島駅南口地区都市・地域交通戦略推進事業	駅前広場・交通広場、停留場ほか A=21,000m ²	広島市						4,004	1.5	-	
		本事業は、3基幹事業のほか国際競争拠点都市整備事業と一體的に実施するものであり、費用便益比はこれら事業全体で算出したものである。																		
												小計						4,004		
道路事業	A01-002	街路	一般	広島市	直接	広島市	S街路	改築	駅前吉島線ほか2路線	特殊街路(軌道インフラ部)	広島市						733	1.5	-	
		本事業は、3基幹事業のほか国際競争拠点都市整備事業と一體的に実施するものであり、費用便益比はこれら事業全体で算出したものである。																		
												小計						733		
市街地整備事業	A13-003	都市交通	一般	広島市	間接	広島電鉄株式会社	-	-	広島駅南口地区都市・地域交通戦略推進事業	軌道インフラ外部 ほか L=約1.1km	広島市						1,785	1.5	-	
		本事業は、3基幹事業のほか国際競争拠点都市整備事業と一體的に実施するものであり、費用便益比はこれら事業全体で算出したものである。																		
												小計						1,785		
												合計						6,522		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
広島市 道路交通局 交通施設整備部 広島駅南口整備担当	令和7年3月
事業効果の発現状況	
定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況	路面電車の駅前大橋ルートや広島駅南口広場の再整備等を進め、利用者利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成や交通結節点機能の強化を図った。 JR広島駅乗車人員については、評価時点において整備完了していないため目標数値に達していないものの、今後事業を進めていくことで効果が発現することが期待される。
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
本計画の全ての要素事業については、社会資本総合整備計画「広島の陸の玄関にふさわしい交通結節点の実現と公共交通ネットワークの機能強化（一期）」へ移行して引き続き計画を実施しており、利用者利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成や交通結節点機能の強化を図ることとしている。	

目標値の達成状況				
番号	指標（略称）			
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因		
1	JR 広島駅乗車人員（1日平均）		評価時点において整備完了していないことやコロナ禍による生活様式の変化があったことから目標値まで達成しなかった。引き続き事業を進めることで目標値に到達する見込みである。	
	最終目標値 84000人			